別紙1

令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

計画事業番号	266	事務事業名	エコミュージアム普及推進事業	担当部署	教育部エコミュージアムセンター	電話	373-0188

【基本情報】

事務区分	■自治事務 □法定受託事務		根拠法令等	-			
事務事業開始年度	平成17年度		個別計画等	北広島エコミュージアム構想			
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	（第 2 章）	人と文化を育むまち
	（第 5 節）	歴史の継承と創造
	（施策 1 ）	エコミュージアム構想の推進
2 対 象		市民及び市内各地域の遺産（自然遺産、歴史遺産、産業遺産等）
3 目的と内容		市民が文化財・郷土資料等について理解を深めるとともに、文化財を大切に守る心を培い、自らのまちを誇りに思う郷土愛を育むため、市民参加による郷土学習や体験学習機会の提供、各地域の自然遺産・歴史遺産・産業遺産等を現地において保全・活用する環境の整備等を行い、エコミュージアム構想を推進する。
4 実施内容（手 段）	2019年度まで	⑴ まちを好きになる市民大学 ⑵ 地域遺産発見バスツアー ⑶ エコミュージアム会議の開催 ⑷ 体験学習の場を提供 ⑸ 企画展示の開催 ⑹ エコミュージアム講演会
	2020年度	⑴ まちを好きになる市民大学 ⑵ 地域遺産発見バスツアー ⑶ エコミュージアム会議の開催 ⑷ 体験学習の場を提供 ⑸ 企画展示の開催 ⑹ エコミュージアム講演会

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
施設の管理運営 エコミュージアム会議 まちを好きになる市民大学の開講 地域遺産バスツアーの実施 常設展・企画展・講演会の開催、サテライト指定に伴う歴史・自然遺産等の紹介・発信、市民協働による事業の推進	令和2年3月31日現在入館者数6,825人、まちを好きになる市民大学の開講（1年生7人・14回、2年生11人・14回）、バスツアーの実施（2回・延54人）、企画展2回、企画展関連事業1回、収蔵室開放（延180人）、シンポジウム・講演会（各1回・延132人）	施設の管理運営 エコミュージアム会議 まちを好きになる市民大学の開講 地域遺産バスツアーの実施 常設展・企画展・講演会の開催、サテライト指定に伴う歴史・自然遺産等の紹介・発信、市民協働による事業の推進		

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統 合」 「休止・廃止」 「終 了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位：千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			5,441		5,474					
事業額	直接事業費	国支出金								
		道支出金								
		地方債								
		その他特財	81		154					
		一般財源	5,360		5,320					
		① 合 計	5,441		5,474					
	人件費 (左側：一般、右側：再任用)	② 人 数 (年間)	2.75	0.00	2.75	0.00				
		③ 1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500				
		④ ＝②×③	22,550	0	22,550	0				
	総事業費①＋④		27,991		28,024					

【評価指標】

	指標名		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
活動指標	①まちを好きになる市民大学入学者数	目標値	人	20	20		
		実績値		7			
	②各種学習会参加人数	目標値	人	300	300		
		実績値		253			
	③	目標値					
		実績値					
	④	目標値					
		実績値					
成果指標	① まちを好きになる市民大学OB会会員	目標値	人	85	90		
	【指標の定義（算式等）】	実績値		76			
	②	目標値					
	【指標の定義（算式等）】	実績値					
	③	目標値					
	【指標の定義（算式等）】	実績値					

【評価項目】

	チェック項目	評点	コメント
妥当性	・税金を使って行うこと（補助すること）が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	まちの歴史や自然などに関する学習機会を提供し、理解を深め、まちに対する愛着や誇りを育てていくことは必要であり、魅力あるまちづくりを進める上で欠くことの出来ない要素であることから妥当である。 本事業は広く市民の参加を促す事業であり、特定の利益は生じない。
達成度	・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	「まちを好きになる市民大学」の卒業生による組織も順調に展開され、各種事業の運営において効果的な連携が図られるなど、学習の成果が随所に活かされていることから、一定の成果があがっているものと考えらえられる。
成果向上	・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	事業の継続により、まちへの理解や愛着などが深まり、市民により主体的な活動が活性化していくことが期待できる。 事業展開の工夫により、これまで以上の効果が得られる可能性があり、向上の余地はあると考える。
経済性	・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	常にコストの意識をもってこれまでも事業運営を行ってきており、低予算での実施に努めてきている。 ボランティアによる事業支援も受けつつ実施している状況にあり、コストの削減は厳しい状況にある。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	□ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし

【民間活力の活用性評価】 （事業担当部局が評価）	■ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 □ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。

別紙1

令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

計画事業番号	268	事務事業名	文化財保存・活用事業	担当部署	教育部エコミュージアムセンター	電話	373-0188

【基本情報】

事務区分	■自治事務 □法定受託事務	根拠法令等	文化財保護法、地方自治法、北広島市文化財保護条例、史跡旧島松駅逓所管理条例、北広島市水稲赤毛種保存会補助金交付要綱
事務事業開始年度	昭和55年度	個別計画等	北広島エコミュージアム構想
〃 終了予定年度			

ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	（第 2 章）	人と文化を育むまち
	（第 5 節）	歴史の継承と創造
	（施策 2 ）	文化財の保存と活用
2 対 象		市内に存在する文化財（有形、無形、民俗文化財）
3 目的と内容		国指定及び市指定文化財をはじめとする市内の貴重な郷土の資料や伝統的遺産を守り、次の世代へ正しく継承していくため、これらの保存・活用を進めるとともに、市民が身近に郷土文化財などに触れることができる環境の整備を推進する。
4 実施内容（手 段）	2019年度まで	国指定文化財（2件）、市指定文化財（4件）、その他郷土資料の保存・活用を図り、展示において文化財に触れる機会を提供する。 ⑴ 非常勤職学芸員の配置 ⑵ 北広島市文化財保護審議会の開催 ⑶ 国史跡旧島松駅逓所の管理運営 ⑷ 東記念館郷土資料収蔵室及び収蔵資料の管理 ⑸ 北広島市水稲赤毛種保存会交付金
	2020年度	国指定文化財（2件）、市指定文化財（4件）、その他郷土資料の保存・活用を図り、展示において文化財に触れる機会を提供する。 ⑴ 非常勤職学芸員の配置 ⑵ 北広島市文化財保護審議会の開催 ⑶ 国史跡旧島松駅逓所の管理運営 ⑷ 東記念館郷土資料収蔵室及び収蔵資料の管理 ⑸ 北広島市水稲赤毛種保存会交付金

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
旧島松駅逓所の維持管理及び公開 東記念館収蔵室の維持管理及び資料の整理と活用 北広島市水稲赤毛種保存会への助成 非常勤職学芸員の配置	・旧島松駅逓所開館（4/28～11/3） ・旧島松駅逓所、見本田にて西部小児童による田植え・稲刈事業（5/17～9/26） ・北広島市水稲赤毛種保存会への助成 ・非常勤職学芸員の配置 ・収蔵資料の整理と活用	旧島松駅逓所の維持管理及び公開 東記念館収蔵室の維持管理及び資料の整理と活用 北広島市水稲赤毛種保存会への助成 非常勤職学芸員の配置		

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統 合」 「休止・廃止」 「終 了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位：千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			7,692		7,177					
事業額	直接事業費	国支出金								
		道支出金								
		地方債								
		その他特財	428		375					
		一般財源	7,264		6,802					
		① 合 計	7,692		7,177					
	人 件 費 (左側：一般、右側：再任用)	② 人 数 (年間)	1.25	0.00	1.25	0.00				
		③ 1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500				
		④ ＝②×③	10,250	0	10,250	0				
	総事業費①＋④		17,942		17,427					

【評価指標】

	指 標 名		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
活動指標	①旧島松駅逓所開館日数	目標値	日	160	160		
		実績値		167			
	②	目標値					
		実績値					
	③	目標値					
		実績値					
	④	目標値					
		実績値					
成果指標	① 旧島松駅逓所観覧者数	目標値	人	7000	7000		
	【指標の定義（算式等）】	実績値		5920			
	② 旧島松駅逓所田植え・稲刈り	目標値	人	150	150		
	【指標の定義（算式等）】	実績値		130			
	③	目標値					
	【指標の定義（算式等）】	実績値					

【評価項目】

	チェック項目	評点	コメント
妥当性	・税金を使って行うこと（補助すること）が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	文化財や史跡などの歴史的遺産は、公的機関により保護していかなくては、消失、散財する可能性が高いことから、公費による保存は妥当である。特に史跡である旧島松駅逓所は貴重な歴史的遺産であるとともに、観光資源としての価値も高いことから、上位施策にも貢献は大きいものと考えられる。
達成度	・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	旧島松駅逓所では、年間6000人の観覧者があり、貴重な歴史的遺産として存在価値は大であると考えられる。市指定文化財をはじめ収蔵する歴史遺産等は、常設展や企画展等で公開するなど、一定の成果が上がっているものと考える。
成果向上	・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	旧島松駅逓所については、老朽化への対応の他、今後、周辺整備を進めていくことにより、より効果的な活用が期待でき、成果の向上が見込まれるところである。その他の文化財や歴史的遺産についても展示機会や公開システムの整備により成果の向上が見込まれる。
経済性	・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	文化財や歴史遺産等の修復、保存活用には、一定のコストが発生するが、現状では不十分なところもあり、経費の削減は難しい状況にある。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	□ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし

【民間活力の活用性評価】 （事業担当部局が評価）	■ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 □ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。

別紙1

令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

計画事業番号	333	事務事業名	郷土文化伝承支援事業	担当部署	教育部エコミュージアムセンター	電話	373-0188

【基本情報】

事務区分	■自治事務　□法定受託事務		根拠法令等	広島音頭保存会補助金交付要綱、ふるさと太鼓保存会補助金交付要綱			
事務事業開始年度	平成2年度						
〃　終了予定年度			個別計画等	-			
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	（第　2　章）	人と文化を育むまち
	（第　5　節）	歴史の継承と創造
	（施策　2　）	文化財の保存と活用
2 対　象		広島音頭保存会、北広島ふるさと太鼓保存会
3 目的と内容		北広島の郷土芸能として「広島音頭」及び「北広島ふるさと太鼓」を広く市民に普及させ後世に伝えるため、保存・継承していくことを支援する。
4 実施内容（手　段）	2019年度まで	⑴ 広島音頭保存会　42千円 北広島の郷土芸能として「広島音頭」の踊りを末永く保存し、市民に広く普及することを目的とした活動に対して補助を行う。 ⑵ 北広島ふるさと太鼓保存会　170千円 北広島市の郷土芸能として「北広島ふるさと太鼓」を伝承し、市民に広く普及することを目的とした活動に対して補助を行う。
	2020年度	昨年度と同様の交付を行う。

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
広島音頭保存会への助成 北広島ふるさと太鼓保存会への助成	⑴ 広島音頭保存会への助成　42千円 ⑵ 北広島ふるさと太鼓保存会　170千円	広島音頭保存会への助成 北広島ふるさと太鼓保存会への助成		

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統　合」 「休止・廃止」 「終　了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			212		212					
事業額	直接事業費	国支出金								
		道支出金								
		地方債								
		その他特財	212		212					
		一般財源								
		① 合 計	212		212					
	人 件 費 (左側:一般、右側:再任用)	② 人 数(年間)	0.05	0.00	0.05	0.00				
		③ 1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500				
		④ =②×③	410	0	410	0				
	総事業費①+④		622		622					

【評価指標】

	指 標 名		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
活動指標	①広島音頭保存会会員数	目標値	人	70	70		
		実績値		55			
	②北広島ふるさと太鼓保存会会員数	目標値	人	30	30		
		実績値		32			
	③	目標値					
		実績値					
	④	目標値					
		実績値					
成果指標	① 広島音頭普及事業成果	目標値	人	200	250		
	参加人数	実績値		430			
	② ふるさと太鼓普及成果	目標値		10	10		
	講演回数	実績値		8			
	③	目標値					
	【指標の定義(算式等)】	実績値					

【評価項目】

	チェック項目	評点	コメント
妥当性	・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか? ・上位の施策への貢献度は大きいですか? ・特定の団体の利益に偏っていませんか? 【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	本市の貴重な郷土文化を伝承保存し、各種催しにおいて披露されることは、郷土への愛着などを醸成していくうえで、不可欠であり、その活動を支援することは妥当と考えられる。
達成度	・計画どおりに成果があがっていますか? 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	伝承保存活動として、地域の学校での普及指導活動をはじめ、各種催しにおいても活動の成果が発揮されるなど、成果が感じられる状況にある。
成果向上	・成果が現状よりも向上する可能性がありますか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	主体的な活動を継続する各団体においては、一定のレベルが維持されている。 一方で人材の確保や、新たな活動の場の確保などが課題となっており、今後の展開に工夫が必要な部分がある。
経済性	・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	活動を維持していくための必要経費を補助していくことは、安定した活動を進めていくためにも必要であり、削減は困難と考えられる。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	□ 法律の義務付けあり ■ 法律の義務付けなし

【民間活力の活用性評価】(事業担当部局が評価)	□ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 ■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。

別紙2

付　　表

補助金･交付金 交付先団体等の状況説明書

計画事業番号	268

＜継続用＞

【交付先団体等の概要】

補助金･交付金名	水稲赤毛種保存会交付金		
交付先の名称及び代表者名	北広島市水稲赤毛種保存会　会長　三戸　修	設立年	平成４年
構成員(団体)数	2名　（2020年3月末現在）		
交付先団体等の活動目的	北広島市の重要な歴史遺産である水稲赤毛種を栽培保存し、収穫米を活用することで、市民が北広島市の歴史を理解し、その歴史を後世に伝承する目的で行うものである。		
交付先団体等の活動内容	・水稲赤毛種の保存・栽培・管理（通年） ・駅逓所見本田での小学生体験学習（田植え、除草、稲刈り） ・赤毛種米を使用した給食事業		
事務局の状況（2019年度）	■補助団体にある　□市役所にある		
補助金等の充当状況（2019年度）	□運営費のみに充当　■事業費のみに充当　□運営費・事業費の双方に充当		

【交付先団体等の決算･予算の状況】

（単位：千円）

	区　　分	2018年度（決算）	2019年度（決算）	2020年度（予算）	備　考
収　入	本市補助･交付金の額（A）	143	143	143	
	会費	2	2	2	
	繰越金				
	収　入　合　計　（B）	145	145	145	
支　出	人件費	69	69	69	
	報償費	39	39	39	
	消耗品費	2	2	2	
	燃料費	31	31	31	
	手数料	4	4	4	
	支　出　合　計　（C）	145	145	145	
繰 越 金	収入（B）－ 支出（C）	0	0	0	
全体支出に対する本市 補助･交付金の割合　(A) ÷ (C)		99　%	99　%	99　%	
補助･交付金の対象経費　(項目)		すべての経費	すべての経費	すべての経費	
補助･交付金の対象経費（金額）　(D)		145	145	145	
対象経費に対する補助 または交付金の割合　(A) ÷ (D)		99　%	99　%	99　%	

補助・交付金の算出根拠	実費相当額の積算

別紙2

付　　表

補助金･交付金 交付先団体等の状況説明書

計画事業番号	333-1

＜継続用＞

【交付先団体等の概要】

補助金･交付金名	広島音頭保存普及事業補助金		
交付先の名称及び代表者名	広島音頭保存会　会長　白石　コウ	設立年	平成３年
構成員(団体)数	51名　（2020年3月末現在）		
交付先団体等の活動目的	北広島の郷土芸能として「広島音頭」の踊りを末永く保存し、市民に広く普及することを目標とする。		
交付先団体等の活動内容	・広島音頭の保存と普及のため、講習会の開催や講習指導を行う ・北広島ふるさと祭りをはじめとする市内行事への積極的参加　　など		
事務局の状況（2019年度）	■補助団体にある　　□市役所にある		
補助金等の充当状況（2019年度）	□運営費のみに充当　　■事業費のみに充当　　□運営費・事業費の双方に充当		

【交付先団体等の決算･予算の状況】

（単位：千円）

	区　　分	2018年度（決算）	2019年度（決算）	2020年度（予算）	備　考
収　入	本市補助･交付金の額（A）	42	42	42	
	事業収入	30	35	30	
	会費	3	3	3	
	雑収入	20	44		
	繰越金				
	収　入　合　計　（B）	95	124	75	
支　出	報償費	26	53	23	
	旅費	40	39	27	
	消耗品費	7	5	5	
	通信運搬費	4	4	4	
	使用料及び賃借料	18	23	16	
	支　出　合　計　（C）	95	124	75	
繰 越 金	収入（B）－ 支出（C）	0	0	0	
全体支出に対する本市 補助･交付金の割合　(A) ÷ (C)		44　%	34　%	56　%	
補助･交付金の対象経費　(項目)		事業全体	事業全体	事業全体	
補助･交付金の対象経費（金額）　(D)		75	80	75	
対象経費に対する補助 または交付金の割合　(A) ÷ (D)		56　%	53　%	56　%	

補助・交付金の算出根拠	定額

別紙2

付　　表

補助金･交付金 交付先団体等の状況説明書

計画事業番号	333-2

＜継続用＞

【交付先団体等の概要】

補助金･交付金名	ふるさと太鼓保存事業補助金		
交付先の名称及び代表者名	北広島ふるさと太鼓保存会　会長　藤山康雄	設立年	昭和５５年
構成員(団体)数	32名　（2020年3月末現在）		
交付先団体等の活動目的	北広島の郷土芸能として「北広島ふるさと太鼓」を末永く保存し、市民に広く普及することを目的とする。		
交付先団体等の活動内容	・「北広島ふるさと太鼓」の伝承活動 ・技術向上に向けての研修及び練習 ・各種祭典への出演と協力 ・後継者の育成　　など		
事務局の状況（2019年度）	■補助団体にある　□市役所にある		
補助金等の充当状況（2019年度）	□運営費のみに充当　■事業費のみに充当　□運営費・事業費の双方に充当		

【交付先団体等の決算･予算の状況】

（単位：千円）

	区　　分	2018年度（決算）	2019年度（決算）	2020年度（予算）	備　考
収　入	本市補助･交付金の額（A）	170	170	170	
	負担金	35	20	20	
	事業収入	150	150	100	
	雑収入		300	1	
	繰入引当戻入収入				
	繰越金	50	67	67	
	収　入　合　計　（B）	405	707	358	
支　出	需用費	19	56	70	
	役務費	86	355	87	
	借上料	86	35	50	
	その他	146	188	151	
	支　出　合　計　（C）	337	634	358	
繰 越 金	収入（B）－ 支出（C）	68	73	0	
全体支出に対する本市 補助･交付金の割合　(A) ÷ (C)		50　%	27　%	47　%	
補助･交付金の対象経費　(項目)		事業全体	事業全体	事業全体	
補助･交付金の対象経費（金額）　(D)		170	170	170	
対象経費に対する補助 または交付金の割合　(A) ÷ (D)		100　%	100　%	100　%	

補助・交付金の算出根拠	定額